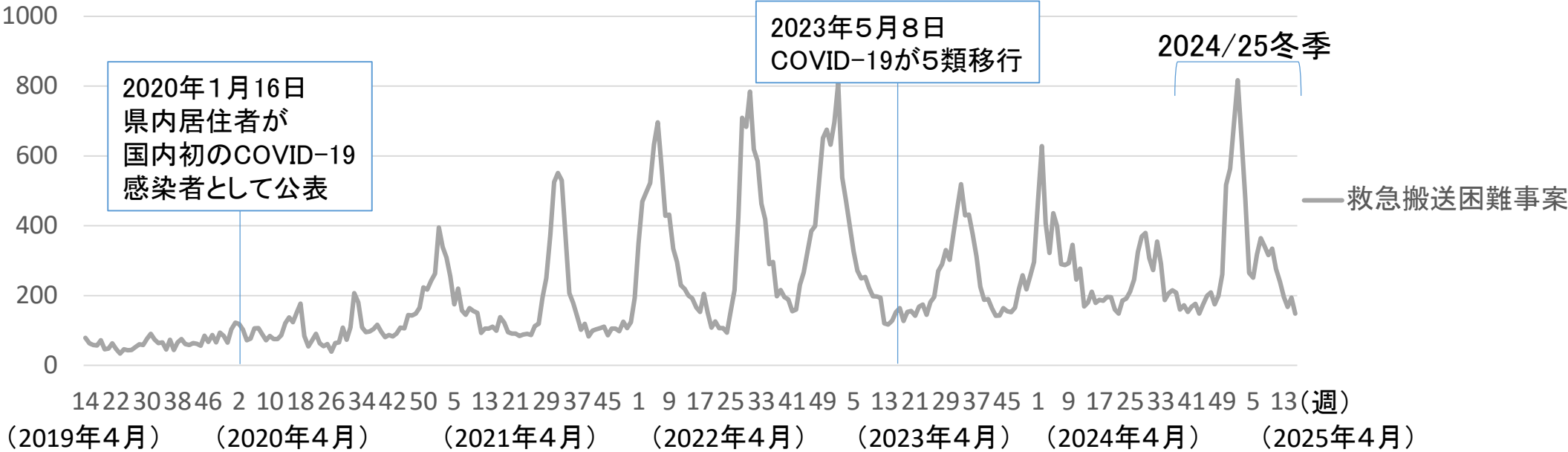




感染症の発生動向を踏まえた 救急医療提供体制の検討について

2025年6月4日
健康危機・感染症対策課

三政令市の救急搬送困難事案の件数の推移

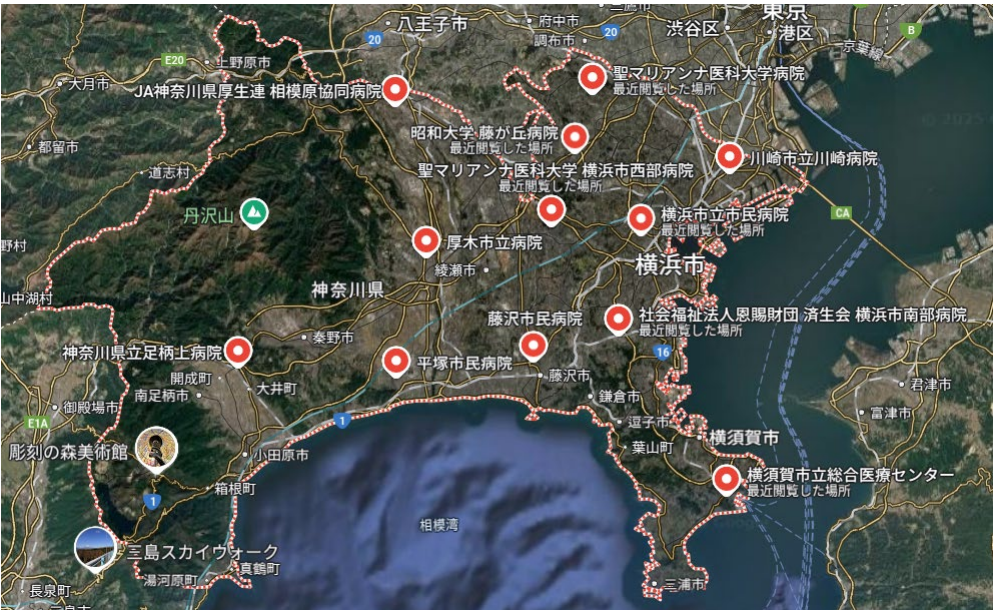


- 2024/25冬季は三政令市の週当たりの救急搬送困難事案が過去最多件数（817件）を記録した。
- これはCOVID-19流行後という観点でも過去最多であった。

感染症発生動向調査事業による定点把握について

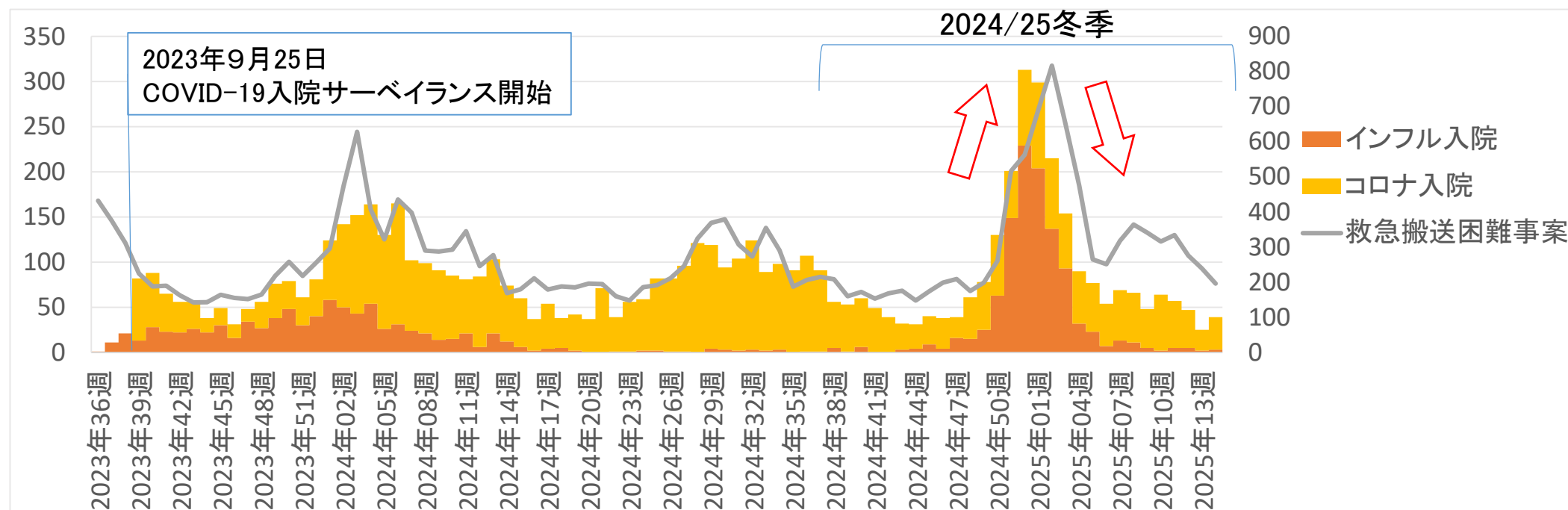
定点種別		対 象 疾 病
患者 定点	小児科定点	インフルエンザ／COVID-19（外来例）
	内科定点	インフルエンザ／COVID-19（外来例）
	基幹定点	インフルエンザ／COVID-19（入院例）
病原体 定点	小児科病原体定点	患者定点としての対象疾患から検体を確保し提供
	基幹病原体定点	

神奈川県内 基幹定点一覧 <Googleマップより>



- 横浜市立市民病院
- 済生会横浜市南部病院
- 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
- 昭和大学藤が丘病院
- 川崎市立川崎病院
- 聖マリアンナ医科大学病院
- 相模原協同病院
- 横須賀市立総合医療センター
- 藤沢市民病院
- 平塚市民病院
- 神奈川県立足柄上病院
- 厚木市立病院

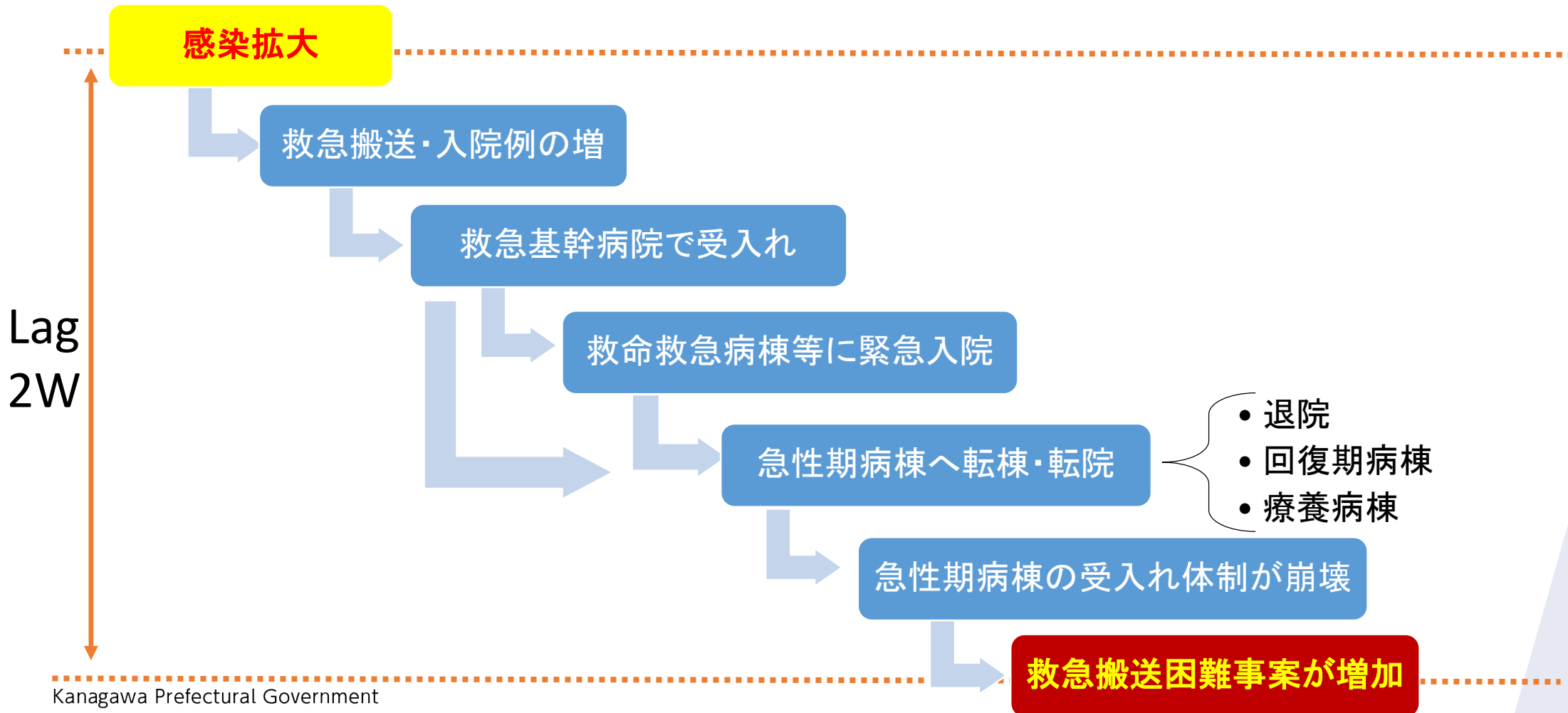
定点把握の結果と救急搬送困難事案の相関関係



- 基幹定点によるインフルエンザ／COVID-19入院数の増減と、救急搬送困難事案の増減の推移は、強い相関 ($r=0.87$, lag 2w) が認められた。
- よって、既存の感染症のまん延により健康危機事案が生じた可能性があると考え、その因果関係を分析し適切な対策を講じるべきではないか。

感染動向により救急搬送困難事案が増減する機序の仮説

- 感染拡大により経時的に急性期病棟の受け入れ体制がひっ迫し、受け入れ困難となることで救急搬送困難事案が増加したという仮説を立てた。



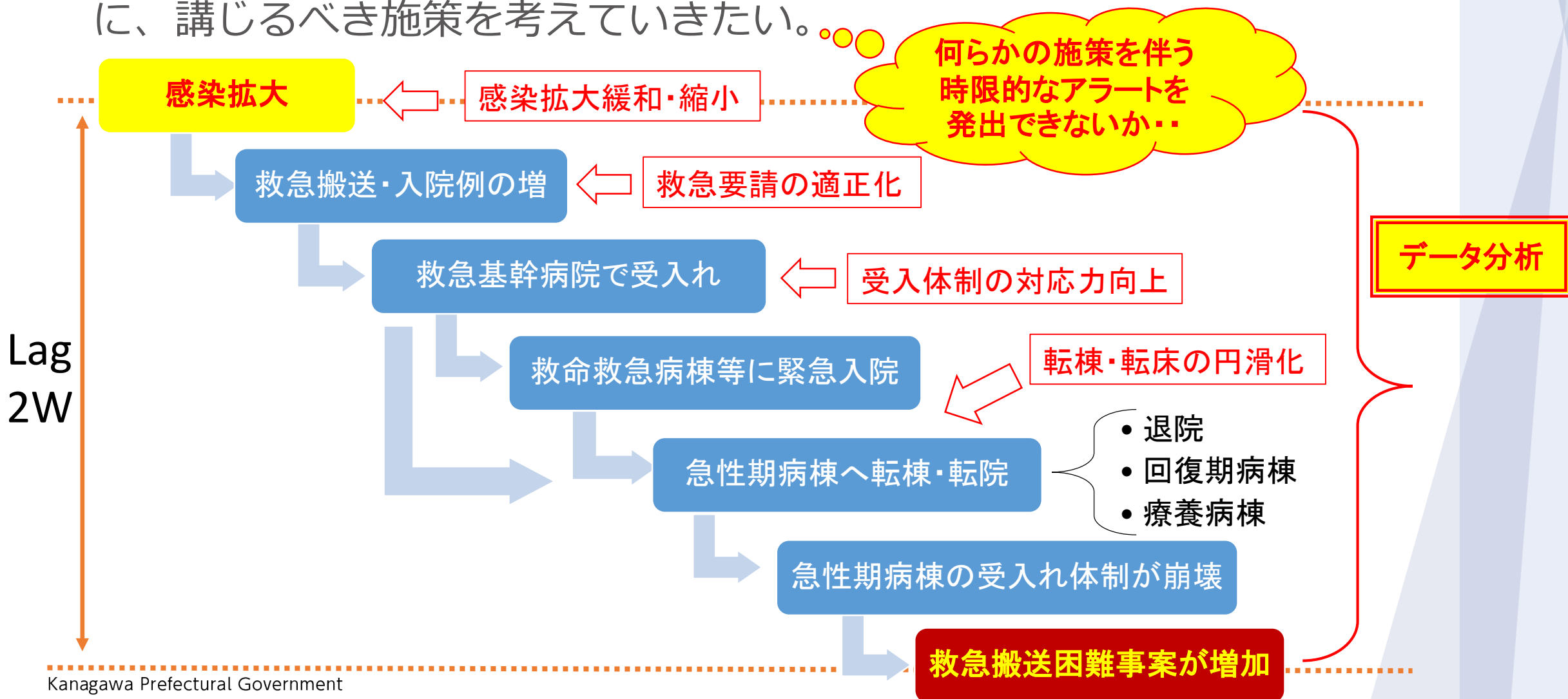
仮説の検証と施策の立案①

- データ分析により客観的に仮説を検証し、救急搬送困難事案の増加による有害事象も明らかにした上で、その因果関係を評価したい。



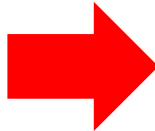
仮説の検証と施策の立案②

- データ分析により、救急搬送困難事案の増加による有害事象を減らすために、講じるべき施策を考えていきたい。



今回ご意見をいただきたいこと

- 2024/25冬季はインフルエンザの流行を受け、救急搬送困難事案が過去最多の件数を記録した。また、感染症の流行と救急搬送困難事案の増減には強い相関があった。
- そこで、新興感染症等発生時ではなくても感染症は健康危機事案を生じると考え、感染症と救急医療体制についてデータ分析し、感染症流行時の救急医療体制の維持に寄与できるような施策を考えたい。



①データ分析をするにあたり留意すべきことはありますでしょうか。

②分析事項として考えられるものはありますでしょうか。